

「田検小学校における須古の白糖工場を活用した創作劇の取組」

1 学校名

宇検村立田検小学校

2 学年・人数

小学6年生(計11人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成27年10月～11月 田検小学校体育館

(2) 発表の日時・場所

平成27年11月6日(金) 田検小学校体育館(学習発表会)

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

すこ はくとうこうじょう
須古の白糖工場・江戸時代

(2) 特徴

今から150年前の1865(慶応1)年頃、2人の外国人技師が宇検村の須古集落に来て、白糖工場を建設した。工場は2年がかりで建設されたが、交通網の未整備や原料と燃料の不足、採算性の問題からわずか2年で廃業に追い込まれた。現在はミカン畑となり、煙突や建物に使われたレンガの一部は今も須古集落の民家の一部の塀に遺っている。

5 保存会や地域との連携

幕末に宇検村の須古集落に白糖工場が建設され、創業していたことを知る宇検村民は少ない。須古集落の住民だけが知っている歴史に埋もれた史跡の一つである。白糖工場跡地は、現在ミカン畑になっており、当時の名残を残す建物や跡地を示す案内板等も設置されてはいない。わずかに建物が建てられたときの石が一部残されているのみである。

田検小学校では、現校長が赴任後3年間にわたり田検小校区の「ヒストリア」を発行している。その中で須古の白糖工場のことを取り上げた。それを読んだ6年生児童が、ぜひ多数の宇検村民に須古集落の歴史を知ってほしいと願い、今年の学習発表会で6年生児童が自分たちで台本を作成し、創作劇として披露することにした。

6 活用の取組の工夫した点

「田検小ヒストリア」をもとに6年生が劇を台本から作成した。「田検小ヒストリア」には、イギリス人の建築技師であるトーマス・J・ウォートルスとマッキンタイラーの紹介や家政婦の「ましゅ」について書かれている。6年生の劇では、白糖工場の紹介だけでなく、ウォートルスと「ましゅ」を中心とした外国人と宇検村民との交流について話を展開するようにした。この劇を通じて、自分たちの校区の史跡に多くの宇検村民の関心が向くように島唄や島口を入れ、随所に微笑ましい要素も取り入れながら、楽しい劇になるように工夫した。

7 取組の様子（研究発表，創作劇等）



学習発表会での発表（2人の外国人技師）



学習発表会での発表（薩摩藩と村人の対立）



学習発表会での発表（外国人技師と村人の交流）



学習発表会での発表（外国人技師との別れ）

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【1年生児童】

にい（兄）やねえ（姉）の声が大きかった。村の人たちの様子がおもしろかった。もう一度見てみたい。

【6年生児童】

劇を演じてみて、宇検村の歴史や外国との古くからの交流を知ることができた。劇の内容や動きを自分たちで相談して決めるのが楽しかった。これからも宇検村の歴史について勉強してみたい。

【教職員から】

子どもたちが、脚本づくりから劇に携わりみんなで協力して作り上げたのは素晴らしい。学校の発行物を劇化することによってさらに多くの人に白糖工場の歴史に関心が向いたのではないと思う。練習の時から毎回真剣に取り組んでいた子どもたち一人一人に拍手を送りたい。

【地域から】

宇検村に長年住んでいたが、須古集落に白糖工場があることはヒストリアを見るまで知らなかった。子どもたちは、島唄や島口なども取り入れながらそれぞれの役を上手に演じていた。文章化されたものを子どもたちが劇として表現してくれたのでさらに楽しく歴史を知ることができた。子どもたちが台詞を大きな声で言ってくれたのでとても分かりやすかった。来年の発表も楽しみにしている。